第３学年　音楽科学習指導案

１　題材名　　曲のかんじを生かそう
　　教材名　　鑑賞「メヌエット」、器楽「山のポルカ」、歌唱「帰り道」

２　題材の目標

（１）　音色、リズム、旋律や歌詞の内容と曲想との関わりに気付き、それらを生かして表現するための技能を身に付ける。【知識及び技能】

（２）　楽器の音色、旋律の反復や変化が生み出す曲のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現について思いや意図をもったりする。【思考力、判断力、表現力等】

（３）　楽器の音色、旋律の反復や変化が生み出す曲想の違いを味わって聴いたり、曲想にふさわしい表現の仕方を工夫して歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

３　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想やその変化と、リズムや旋律との関わりについて気付いている。 ②リコーダーの音色や響きと、タンギングや息の流れなど演奏の仕方との関わりに気付き、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。 ③曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりに気付き、呼吸や発音の仕方に気を付けて自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	①音色やリズム、旋律などと曲想との関わりについて考え、体を動かすなどして曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 ②音色やリズム、旋律などと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 ③旋律の反復や変化、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①楽器の音色や旋律の反復や変化が生み出す曲のよさを感じ取りながら、聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ②曲想と楽器の音色やリズム、旋律との関わりが生み出す曲や演奏のよさなどを感じ取りながら、曲想に合った表現を工夫して演奏する学習に進んで取り組もうとしている。

４　題材と指導の構想（全６時間）

（１）題材と児童

①　児童について

これまでの学習では、くり返しや変化を使ってまとまりのあるリズムを作ったり、旋律の上がり下がりを感じ取って歌ったりしている。友達の演奏や歌を聴く場面はあったが、今年度、鑑賞の学習経験が少ない。本題材では、既習の旋律の上がり下がりや変化等を生かして、曲想の変化や旋律の特徴に気付いて歌唱や器楽の演奏に生かすことを目指したい。

② 題材について

本題材は、前題材でも取り上げられている旋律に着目し、曲想との関わりを考えて鑑賞したり表現したりする。鑑賞の学習では、旋律が生み出す違いや特徴について聴き取ったり、変化やくり返しから曲のまとまりに気付いたりして、曲全体を見通して味わって聴く。器楽の学習では、２年時に鍵盤ハーモニカで演奏している「山のポルカ」を扱う。曲の感じを生かすとの関わりから、改訂前の教科書に載っていたＡ＋Ｂ＋Ａ形式の楽譜を扱う。歌唱の学習では、曲全体の旋律の特徴に気付き、歌詞の様子を思い浮かべながら曲想にふさわしい表現の仕方を考える。旋律の反復や伴奏の変化を感じ取り、歌い方の工夫に結び付けたい。

（２）指導の構想

本題材は、現行の小学校学習指導要領の以下の点を受けて設定した。

第３学年及び第４学年

Ａ　表現

（１）歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。

ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。

（イ）呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能

（２）器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ　次の（ア）及び（イ）について気付くこと。

（ア）曲想と音楽の構造との関わり

（イ）楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。

（ア）範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する技能

（イ）音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

Ｂ　鑑賞

（１）鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア　鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。

イ　曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。

〔共通事項〕ア　音色、リズム、旋律

イ　反復、変化

① 「学びの地図」の活用

今までの音楽授業では、授業ごとの課題やめあてに沿って学習を進めることが多かった。そのため、題材の中での教材曲同士のつながりが乏しく、児童自身がつけたい力を考える機会や題材の中で何を学んでいるのかについて知る機会がなかった。そこで、「学びの地図」を活用し、題材全体を通して何について学習をしているのか、何ができるようになるのかを児童が把握できるようにする。全体で共有することによって、見通しをもち、意欲的に学習に取り組むことができると考える。題材の１時間目には、題材で扱う教材曲を知る。

題材名の確認　　（こんどは、こんな勉強するよ。）

⇓

子どもへの問いかけ　（かんじを生かすってどういうこと？）

⇓

ゴールの姿を示す　　（こんなことができるようになるといいね。）

⇓

今の姿を知る　（今までは、〇〇を勉強したね。今のみんなは、〇〇ができるようになろう。）

⇓　今まで児童が身に付けてきたことを一緒に記入し、ゴールの姿から児童が学習することを主体的に確認できるようにする。

学びをつくる　（ゴールに向かって、どの活動からはじめようか？）

児童と作成した「学びの地図」は、タブレット端末で共有し、いつでも見ることができるようにする。また、適宜振り返りを行い、その振り返りから次時に生かしたい記述や内容を教師が意図的に取り上げ、題材全体でのつながりを意識させたい。こうして作った「学びの地図」の蓄積が、学びの足跡となるようにポートフォリオ的に活用していくことも期待できる。

②　題材の流れについて

前題材では、「旋律の特徴を感じ取ろう」を学習した。「とどけようこのゆめを」と「あの雲のように」では、旋律の音の上がり下がりを感じながら歌い、リコーダーで演奏した。「ふじ山」では、曲の山を感じながら歌い、旋律の特徴について学習した。その際、児童は歌いたい演奏したいという意欲があるが、思いや意図をもって表現を工夫する経験が少ない。児童は、客観的に自分の表現の工夫を見付けることが難しい実態がある。そこで、本題材の「曲の感じを生かそう」では、まず鑑賞で「メヌエット」を聴き、感じたことを体や手を動かして表現したり、言葉で表現したりする活動を行う。そして、前題材の学習を生かして旋律の特徴の違いに気付き、音楽から気付いたことと、曲全体の曲想とをつなげたい。「山のポルカ」では、改訂前の教科書に載っていたＡ＋Ｂ＋Ａ形式の楽譜を採用する。「メヌエット」で学習した曲想が変化する楽曲を使用することで、表現の工夫を自覚させたい。「帰り道」では、歌詞の内容を想像し、このように歌いたいという思いや意図を大切にして、いろいろな歌い方を試す場面を設ける。周りの人の歌い方から客観的に表現の工夫を探す姿を期待する。

5　指導計画（全６時間）

「学びの地図」に関わる学習活動

予想される「振り返り」の記述

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価			
		知	思	主	評価規準
1	○　学びの地図の「ゴールの姿」から，題材全体で学習する内容を知る。 ・教材曲を知り，学習する順番を決める。 ・「これまでの学習で身に付けたこと」を記入し，学びの地図を完成させる。 ○　「メヌエット」の旋律の特徴を感じ取って聴く。 ・曲名、作曲者を知る。 ・バイオリンについて知る。 ・体や手を動かしながら聴く。 ・曲全体を聴き、反復や変化を知る。	○		○	・曲想やその変化と、リズムや旋律との関わりについて気付いている。(知・技①) ・楽器の音色や旋律の反復や変化が生み出す曲のよさを感じ取りながら、聴く学習に進んで取り組もうとしている。(態①)
2 本 時	○　「メヌエット」について、バイオリンの音色や曲全体を味わって聴く。 ・図形楽譜を見て２つの旋律を聴く。 ・バイオリンの演奏映像を見る。 ・２つの旋律の違いについて話し合い、感じたことや気付いたことを発表する。 ・「メヌエット」は，なめらかな感じで音がつながっていたけれど，次の旋律で音が細かくて弾んだ感じに変わりました。次のリコーダーでも曲の感じを考えて演奏したいです。 ・お気に入り度に応じて☆を塗る。		○		・音色やリズム、旋律などと曲想との関わりについて考え、体を動かすなどして曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。(思・判・表①)
3	・前時の振り返りから，曲の感じによって吹き方を変えてみたいという考えを取り上げる。 ○　「山のポルカ」について、旋律やリズムの特徴を聴き取り、運指や音色に気を付けてリコーダーで演奏する。 ・指導用 CD を聴き、旋律のリズムや特徴について気付いたことを発表する。 ・旋律を階名唱する。 ・「ファ」と「ミ」の運指を確認し、低い音をふくときのポイントを参考にして、「ファ」と「ミ」の音を吹く。 ・運指や音色に気を付けて、演奏する。 ・右手を使う「ミ」と「ファ」を習いました。次のリコーダーでは，低い音が上手にできるようにタンギングに気を付けたいです。	○			・リコーダーの音色や響きと、タンギングや息の流れなど演奏の仕方との関わりに気付き、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(知・技②)

4	・前時の振り返りから，本時に自分が頑張りたいことを確認する。 ○「山のポルカ」について、旋律の特徴に合う表現を工夫して、リコーダーで演奏する。 ・「ポルカ」の踊りを知り、そのイメージに合う演奏の仕方を工夫する。 ・旋律の特徴に合ったタンギングや息の使い方に気を付けて演奏する。 ・前半はポルカのおどりのように弾んだ感じで演奏することができました。タンギングに気を付けてふいたら，なめらかなところも上手になってうれしかったです。次の歌は，ポルカと違って優しい感じで歌いたいです。 ・自分の頑張り度に応じて☆を塗る。		○	○	・音色やリズム、旋律などと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。（思・判・表②） ・曲想と楽器の音色のリズム、旋律との関わりが生み出す曲や演奏のよさなどを感じ取りながら、曲想に合った表現を工夫して演奏する学習に進んで取り組もうとしている。（態②）
5	・題材で扱った「メヌエット」と「山のポルカ」で学習した内容を振り返り，曲想と歌い方を結び付けて考えることに着目する。 ○　「帰り道」について、歌詞の表す様子を思い浮かべ、曲の雰囲気を感じ取る。 ・歌詞を声に出して読み、歌詞の内容から想像したことや感じたことを発表する。 ・指導用 CD の範唱を聴きながら、歌詞の表す様子を思い浮かべる。 ・曲の雰囲気を感じ取りながら歌詞唱する。 ○　曲全体の旋律の特徴に気付いて歌う。 ・楽譜を見て、フレーズごとの旋律の特徴について話し合う。 ・楽譜を見て、旋律の音の上がり下がりを手や指で表しながら、指導用 CD に合わせて旋律を歌う。 ・「帰り道」は友達への優しい気持ちをこめて歌いたいと思いました。とくに，イの旋律を「メヌエット」のアのようになめらかに歌いたいです。イの旋律はリズムが似ているので強弱をつけてみたいです。	○			・曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりに気付き、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（知・技③）

6	・前時の振り返りから，歌詞から想像したことや試してみたい歌い方を取り上げて，いろいろな表現の仕方を知る。 ○　「帰り道」について、曲想や歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫する。 ・グループをつくり、曲想や歌詞の内容に合った歌い方の工夫を話し合う。 ・グループごとに話し合った歌い方の工夫を試す。 ・歌うグループと聴くグループに分かれて互いの発表を聴き、それぞれの歌い方の工夫のよさを味わう。 ・発表する様子を録画し，学びの地図に添付する。 ・ゴールの姿を確認し，題材全体の自分のできばえに応じて☆を塗る。 ・この題材でどのような力が付いたのか確認する。		○		・旋律の反復や変化、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(思・判・表③)

6　本時の計画（２時間目／全６時間）

（1）本時のねらい

「メヌエット」のアとイの旋律について、バイオリンの演奏の仕方や図形楽譜を見て感じたことや気付いたことを交流する活動を通して、２つの旋律の曲想とリズムや旋律の音の上がり下がりとの関わりに気付き、曲全体を味わって聴いている。

（2）本時の構想

①　前時とのつながり

前時では、「学びの地図」を作成し、題材で扱う曲や題材のゴールの姿を知った。教材曲の「メヌエット」やベートーベン、バイオリンの音色について学習している。「メヌエット」については、曲全体を聴き、体や手を動かしながら鑑賞し、反復や変化に気付いている。本時では、前時で学習した内容を焦点化し、曲想とリズムや旋律の音の上がり下がりとの関わりに気付くよう指導していく。

②　追究を深めさせる２つの手立て

アとイの主な旋律を表した「図形楽譜」と「バイオリンの演奏方法に焦点をあてた映像」の２つを用意する。

「図形楽譜」を使った追究場面では、それぞれのタブレット端末にアとイのどちらか明記されていない２つの「図形楽譜」と、アとイの冒頭部分の音源をそれぞれ送る。児童が、曲を聴いた感じと「図形楽譜」を結び付けながら、旋律の特徴と曲の感じの関係に気付くことができるようにする。また、一人１台端末を使うことができるため、自分の聴きたい曲の部分を繰り返し聴く等、自分の追究に合わせて学習を進めることができる。

次に、「バイオリンの演奏映像」では、演奏の仕方から旋律の特徴を捉えさせることができる。実際の演奏方法を見比べて考えることで、バイオリンの演奏の特徴にも触れながら追究していくことができる。

なお、どちらの追究場面でも、気付いたことを具体的に言葉で伝え合ったり、みんなで確かめたりして、感じたことを言葉で表すことを大切にしていきたい。

（3）本時の展開　　「学びの地図」に関わる学習活動　　予想される「振り返り」の記述

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価【観点／方法】○留意点
1　前時で学習した内容を振り返る。（5分）	T1　前回の「メヌエット」で、体を動かしながら鑑賞しましたね。 C1　ベートーベンやバイオリンの学習もしたよ。 T2　そうですね。前回と同じように曲を聴いて、体を動かしてみましょう。 C2　動きが変わっているよ。	○イの旋律で動きに変化があった児童を取り上げて、再現してもらう。
2　学習課題を作り、見通しをもつ。（5分）	T3　イになったら動きが少し変わった人がいますね。 C3　本当だ。○○さんはイになったら動きが違うね。 T4　○○さんの動きはどう変わりましたか？ C4　腕の振り方が変わったよ。 T5　○○さんの動きはなんで変わったのかな。 C5　音楽が変わったから。 T6　なるほど。今日は音楽がどう変わったのか確かめてみませんか？ C6　速くなったから変わったのかも。 学習課題 アとイでは，音楽がどう変わったのかな。	○動きの変化を共有する。
3　図形楽譜でアとイのどちらの旋律か考える。（１０分）	T7　速さやリズムに違いがあると前回の学習で気付きましたね。図形楽譜のどちらがアでイでしょうか。 C7　つぶつぶしている方がイだと思います。 T8　どうしてこちらがイだと思いましたか。 C8　音が短くて弾んだ感じがするからです。 T9　もう一つがアだと思った人はいますか。 C9　音がのびていてつながっているので、アだと思いました。 T10　答え合わせをしましょう。 C10　やっぱりこっちがイだった。	○アとイが書いていない教科書の図形楽譜をタブレットに送る。 ○音が入っている図形楽譜を全体で確認する。
4　バイオリンの演奏の仕方を動画で確認する。（１０分）	T11　次は、少しレベルアップします。バイオリンの演奏映像でどちらの旋律か考えましょう。 C11　アはなめらかな方で、イは手をいっぱい動かしている方だと思う。 T12　イで手をいっぱい動かしていたということは、音が少ないのかな？多いのかな？	○音が入っていない演奏動画をタブレットに送る。 ○バイオリンの弓の動きや左手の指の動きに注目させる。前時にバイオリンの奏法と音色について学習したことを想起させる。

	C12　多いと思う。 T13　それでは、音が入っている映像を見て、答え合わせをしましょう。 C13　やった。やっぱり忙しそうな方がイだ。	
5　まとめを考える。(5分)	T14　アとイでは、音楽がどう変わりましたか。 C14　アは音がつながっているからなめらかに聴こえて、イは音が離れていて細かいから弾んでいるように聴こえました。 まとめ アは，音がつながっていてなめらかな感じだったのに，イは，リズムが細かくてつぶつぶしていて，音が上がり下がりしているから弾んだ感じに変わった。	
6　学びの地図を使って振り返りをする。(10分)	T15　最後にまとめたことを確認するために「メヌエット」を通して聴いてみましょう。 T16　学びの地図に「メヌエット」の振り返りを記入しましょう。「メヌエット」の素敵だなと思ったところを書きましょう。 ・「メヌエット」は，なめらかな感じで音がつながっていたけれど，次の旋律で音が細かくて弾んだ感じに変わりました。そして，始めの旋律に戻ることがおもしろいと思いました。次のリコーダーでも曲の感じを考えて演奏したいです。 ・「メヌエット」のお気に入り度に応じて☆を塗る。理由も記入する。	○学びの地図の振り返り用に提出箱を用意する。 ■曲想やその変化と、リズムや旋律との関わりについて気付き、「メヌエット」の良さについて記述している。【思・判・表①／ロイロノート】

（4）本時の評価

A：曲想とその変化に気付き、リズムや音の上がり下がりと関連付けて、曲の良さを記述している。

B：曲想とその変化に気付き、曲の良さを記述している。

（5）板書計画

１１／１６　曲のかんじを生かそう

学習課題
　アとイでは，音楽がどう変わったのかな。

＜図形楽譜＞	＜映像＞
ア	
イ	

まとめ
　アは，音がつながっていてなめらかな感じだったのに，イは，リズムが細かくてつぶつぶしていて，音が上がり下がりしているから弾んだ感じに変わった。

7　参考文献・資料

・「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校 音楽)」：令和２年３月国立教育政策研究所教育課程研究センター